

# 大正時代の唱歌に関する一研究 — 永井幸次作品の音階構成を中心にして —

## A Study of Songs for Elementary Musical Education in the Taisho Era (1912-1926)

(2007年3月31日受理)

松井みさ

Misa Matsui

Key words : 唱歌, 永井幸次, ヨナ抜き音階

### 要 旨

大正時代に作曲された唱歌を、永井幸次の作品を中心に、その構成や音階を中心に調べた。その結果、同時代に作曲された童謡と同じように、長音階の第4音と第7音が無い、いわゆるヨナ抜き音階やそれに類する音階で作曲された曲が多い事が分かった。これは童謡と同じく、日本古来からある音階である陽旋法や陰旋法の影響を強く受けていると言う事である。童謡と唱歌は、その成立経緯は異なるが、広く世の中で親しまれた音楽として、その音階構成においては共通点が存在した。

### はじめに

筆者は前稿「創成期の童謡とその音階に関する一考察」で大正期から昭和初期にかけての童謡について、その音階構成と陽旋法、陰旋法との関係に焦点を当てた。そして、当時の童謡に多く用いられていたヨナ抜き音階が現代の音楽においても広く使われ、親しまれている事を述べた。

一方、明治期からの日本の音楽教育にとって欠かすことのできないものに唱歌がある。唱歌は、時の音楽取調掛である伊澤修二が音楽教育振興のため中心になって作った物である。その中には、西洋の曲に日本語の歌詞をつけて紹介した曲や、日本人の作詞作曲による曲などがあり、文部省唱歌として数多く紹介された。

本編では、大正時代に作曲された唱歌の中でも、永井幸次の作品を中心に、曲の構成、また前著と同様、音階構成から読み取れるものについて考察する。

### 永井幸次について

永井幸次は、明治7年(1874年)鳥取市の生まれである。幼少の時に母方の叔父から、伊澤修二・メーソン編、音楽取調掛発行の『小学唱歌集』を貰い、また、父方の伯父に賛美歌を教えてもらった事などから、音楽に親しんでいた。地元の教会にあったオルガンで賛美歌の「見渡せば」(むすんでひらいての旋律)や「蛍の光」などを練習した。15歳の時、宣教師のローランドから本格的にドレミ唱法や発声などの音楽を学んだ。18歳の時、東京音楽学校予科に入学後、本格的に音楽の勉強を始めた。東京音楽学校予科を卒業後、東京高等師範学校付属音楽学校に入学、卒業後、明治29年、静岡県師範学校に勤務、明治33年に鳥取県師範学校に赴任する。主に合奏とオルガンを指導した。この頃、鳥取中学校と鳥取高等女学校の教師も兼務していた。明治38年、神戸市に出向、中宮尋常高等小学校に赴任した。大正4年に関西で最初の音楽学校となる大阪音楽学校(のちの大阪音楽大学)を創設した。昭和40年90歳でこの世を去った。

## 唱歌集について

本編で資料として用いた唱歌集は「小学校唱歌新教材第一篇」（大正11年7月発行）から「唱歌新教材第卅八篇」（大正14年6月発行）までである。【写真1】（第廿七篇・第廿九篇～第卅五篇を除く）この30冊の中から、永

井幸次が作曲した曲48曲を抜き出した。これらの唱歌集が発行された頃、永井幸次は、清堀尋常小学校で唱歌の授業を担当している。この事から考えて、これらの曲集は、小学校の音楽の授業に用いるために作曲され、発行されたものであろう。この48曲について、調、拍子、最低一最高音、そして音階構成音を調べた。【表1】

表1

	冊子名	発行年	曲名	調	拍子	最低音一最高音	音階構成音
1	小学校唱歌新教材第一篇	大正11年7月発行	親鶉子鶉	C:	2/4	c-c	c,d,e,f,g,a,h
2			きやうだい	G:	2/4	d-d	g,a,h,d,e
3	小学校唱歌新教材第二篇	大正11年10月発行	雛菊	g:	2/4	d-d	g,a,b,c,d,e,s
4	小学校唱歌新教材第三篇	大正11年7月発行	五一ぢいさん	As:	4/4	c-c	as,b,c,es,f
5			親ねこ子ねこ	F:	2/4	d-d	f,g,a,c,d
6	小学校唱歌新教材第四篇	大正11年7月発行	ほたる	C:	2/4	c-d	c,d,e,g,a
7			一軒家	g:	4/4	c-d	g,a,b,c,d,e,s
8	小学校唱歌新教材第五篇	大正11年8月発行	かぢや	F:	2/4	c-f	f,g,a,c,d
9	小学校唱歌新教材第六篇	大正11年8月発行	早くお家に帰りませう	a:	4/4	d-c	a,h,c,d,e,f
10			まはりつこ	F:	2/4	d-d	f,g,a,c,d
11	小学校唱歌新教材第七篇	大正11年10月発行	でんでんむし	F:	2/4	d-d	f,g,a,c,d
12			さゝ舟	F:	4/4	c-d	f,g,a,b,c,d
13			影法師	g:	2/4	d-d	g,a,b,d
14	小学校唱歌新教材第八篇	大正11年10月発行	雨	A:	2/4	e-cis	a,h,cis,e,fis
15			小野道風	G:	4/4	d-e	g,a,h,d,e
16	小学校唱歌新教材第九篇	大正11年10月発行	三匹猿	F:	2/4	d-d	f,g,a,c,d
17	小学校唱歌新教材第十篇	大正11年10月発行	燈臺守の娘	C:	2/4	d-f	c,d,e,f,g,a,h
18	小学校唱歌新教材第十一篇	大正11年11月発行	山びこ	B:	2/4	f-d	b,c,d,f,g,a
19			きのことり	G:	2/4	d-e	g,a,h,c,d,e,fis
20	小学校唱歌新教材第十二篇	大正11年11月発行	鳥居勝商	E:	4/4	h-e	e,fis,gis,a(ais),h(c),cis,dis
21	小学校唱歌新教材第十三篇	大正12年2月発行	開墾	Es:	2/4	b-es	es,f,g,as,b,c
22			山の秋	B:	2/4	d-es	b,c,d,es,f,g
23	小学校唱歌新教材第十四篇	大正12年2月発行	飛行機	G:	2/4	d-e	g,a,h,c,d,e,fis
24	小学校唱歌新教材第十五篇	大正12年3月発行	花さかぢいさん	f:	4/4	c-d	f,g,as,c,des
25			町の朝	F:	2/4	c-d	f,g,a,c,d
26	小学校唱歌新教材第十六篇	大正12年3月発行	捕鯨船	A:	4/4	cis-e	a,h,cis,e,fis
27			おとよ娘	a:	4/4	c-e	a,h,c,e,f
28	小学校唱歌新教材第十七篇	大正12年5月発行	牛と馬	C:	2/4	c-d	c,d,e,g,a
29			三羽のつばめ	G:	4/4	d-d	g,a,h,d,e
30	小学校唱歌新教材第十八篇	大正12年5月発行	筍	G:	2/4	d-c	g,a,h,c,d
31			金の鶉	Es:	2/4	es-c	es,f,g,as,b,c
32	小学校唱歌新教材第十九篇	大正12年6月発行	鯉のぼり	D:	2/4	d-d	d,e,fis,g,a,h,cis
33	小学校唱歌新教材第二十篇	大正12年6月発行	山家の雨	g:	2/4	d-es	g,a,b,c,d,es
34			水てっぽう	G:	2/4	d-d	g,a,h,d,e
35	小学校唱歌新教材第廿一篇	大正12年7月発行	麥うち	F:	2/4	c-d	f,g,a,b,c,d,e
36			かうもり	D:	2/4	d-d	d,e,fis,g,a,h
37	小学校唱歌新教材第廿二篇	大正12年7月発行	海へ	G:	4/4	d-d	g,a,b,d,e,fis
38			象	C:	2/2	c-e	c,d,e,g,a
39	小学校唱歌新教材第廿三篇	大正12年10月発行	郵便函	d:	2/4	d-d	d,e,f,a,b
40			鷺	A:	2/4	cis-d	a,h,cis,d,e,fis,gis
41	小学校唱歌新教材第廿四篇	大正12年10月発行	雲の提灯	G:	4/4	d-e	g,a,h,d,e
42			お窓	F:	2/4	d-d	f,g,a,c,d
43	小学校唱歌新教材第廿五篇	大正12年12月発行	もちつき	G:	2/4	d-d	g,a,h,c,d,e
44	小学校唱歌新教材第廿六篇	大正12年12月発行	お正月	F:	2/4	c-d	f,g,a,b,c,d,e
45	小学校唱歌新教材第廿八篇	大正13年2月発行	郵便	F:	4/4	c-d	f,g,a,c,d
46	唱歌新教材第卅六篇	大正14年6月発行	樂天	C:	2/4	c-e	c,d,e,g,a
47	唱歌新教材第卅七篇	大正14年6月発行	西行法師	g:	3/4	d-g	g,a,b,c,d,es
48	唱歌新教材第卅八篇	大正14年6月発行	尊い寶	C:	4/4	c-e	c,d,e,f,g,a



写真1

## 調について

48曲を長調と短調に分けると、長調39曲、短調9曲となり、圧倒的に長調が多い。これは、唱歌が、教育的効果を目的として作曲されていることからと考えられる。

また、調性を調べると、F-durが一番多く11曲あった。ついで、G-durの10曲、C-durの7曲とつづく。後の音域の項で詳しく述べるが、G-durとF-durの曲が多いのは、調号が少なく演奏しやすい点と、主音を中心とした上下5度の音域がちょうど歌いやすい音域に含まれているからであろう。【表2】短調の中で多い調がa-mollの4曲、g-mollの3曲なのからもその傾向が見て取れる。【表3】

表2

調名	曲数
F-dur	11
G-dur	10
C-dur	7
A-dur	3
B-dur	2
Es-du	2
D-dur	2
E-dur	1
As-dur	1
計	39

表3

調名	曲数
a-moll	4
g-moll	3
f-moll	1
d-moll	1
合計	9

## 音域について

1曲の中の最低音と最高音の度数を調べると、8度が17曲、9度が16曲と圧倒的である。大部分が小学生を対象とした唱歌なので、歌いやすい音域を考えた場合、8度、9度というのは妥当な線と考える。【表4】

表4

度数	曲数
6	3
7	2
8	17
9	16
10	6
11	4
合計	48

最低音と最高音を見た場合も、最低音は、 $d_1$ 音の25曲、 $c_1$ 音の16曲とこの2音で大部分を占める。【表5】最高音も、 $d_2$ 音の26曲、 $e_2$ 音の10曲、 $c_2$ 音の5曲となっている。【表6】 $c$ 音はC-durの主音、F-durの下属音、G-durの属音と48曲の中の上位3調にとって重要な音であるので、最低音、最高音ともに多く使われている。 $d$ 音は、上位3調との関係を見た場合、G-durの属音ではないが、小学生の声域を考えた場合、一番発声しやすい音域といえる。

表5

最低音	曲数
f1	1
e1	1
es1	1
d1	25
cis1	2
c1	16
h	1
b	1
合計	48

表6

最高音	曲数
g <sup>2</sup>	1
f <sup>2</sup>	2
e <sup>2</sup>	10
es <sup>2</sup>	3
d <sup>2</sup>	26
cis <sup>2</sup>	1
c <sup>2</sup>	5
合計	48

## 拍子について

2/4拍子が32曲、4/4拍子が14曲となっていて、2拍子系の拍子が大部分を占めている。3/4拍子の曲が1曲あるが、この曲は、今回研究した唱歌集の中ではむしろ例外的な存在になっている。【表7】「日本の唱歌」「日本のうた」など他の本を調べてみても、多くの曲は2/4拍子、もしくは4/4拍子である。3/4拍子の唱歌、童謡を調べてみると、「海」（作詞、作曲者不詳、大正2年）「冬景色」（作詞、作曲者不詳、大正2年）、「故郷」（高野辰之 詞、岡野貞一 曲、大正3年）、「朧月夜」（高野辰之 詞、岡野貞一 曲、大正3年）などがある。

表7

拍子	曲数
2/4	32
4/4	14
3/4	1
2/2	1
合計	48

## 音階構成について

筆者の前著「創生期の童謡の音階構成に関する一考察」で筆者は日本古来の音階である陽旋法、陰旋法と西洋から入った長音階、短音階との関係、それに伴い派生したヨナ抜き音階などについて述べた。今回研究している唱歌48曲についても、同様にその音階構成について考える。

まず、長調の曲39曲について、その音階構成を調べてみると、ヨナ抜き音階で作曲されている曲が21曲、第7音だけ使われていないナ抜き音階で作曲されている曲が7曲、西洋の長音階で作曲されている曲が9曲あった。ヨナ抜き音階で作曲されている曲が圧倒的に多いのは予想通りで、やはり、日本の伝統音階である陽旋法の影響

が強いことが伺える。さらに第4音だけがないヨ抜き音階で作曲された曲も2曲あった。これらナ抜き音階、ヨ抜き音階もヨナ抜き音階から派生したと考えると、実に39曲中30曲は陽旋法の影響を受けた音階で作曲されていることになる。【表8】

また、注目すべきは、表の20番、小学校唱歌新教材第十二篇に載っている「鳥居勝商」の曲である。この曲は、今回研究した48曲中唯一のE-durで音域も11度と広くとってある。何よりも、一番驚くのは、幹音のみでなく、派生音が曲中に用いられていることである。第4音の上位変化音と第6音の下位変化音である。派生音が用いられているのは、今回研究した他の曲にはなく、曲想も、西洋音楽の影響を色濃く受けた内容となっている。

次に、短調の9曲について考える。9曲とサンプルが少ないのだが、音階構成を調べてみると、第7音の無いナ抜き音階が5曲、ヨナ抜き音階が4曲とほぼ同数になっている。第7音のないナ抜き音階の曲が多いのは、前著にも書いた陰旋法と短音階との関係に思われる。陰旋法の上行形と下降形の両方の音を短音階に当てはめてみると、第7音だけ使われていないことが分かる。【表9】

これらのことから、ヨナ抜き音階は、長調、短調ともにこの時代の曲に置いては一般的に用いられた音階である事が分かる。

表8

音階	曲数
長音階	9
ヨナ抜き音階	21
ナ抜き音階	7
ヨ抜き音階	2
合計	39

表9

音階	曲数
ヨナ抜き音階	4
ナ抜き音階	5
合計	9

## ま と め

今回、大正時代に作曲された唱歌を、一人の作曲家の曲に焦点を当てて調べた。それでも、同時代の他の作曲

家の唱歌，また童謡と音階構成において共通するものが多くあった。明治時代に生まれた唱歌，大正時代に生まれた童謡，生まれた経緯，目的こそ異なっているが，どちらも現代まで広く親しまれ，さらに今日でも新しい曲が生まれている。そして，大正時代の作品はどちらもヨナ抜き音階などのよく似た音階構成で作曲されている。これは，この時代，ヨナ抜き音階が広く世の中に普及し，生活の中に溶け込んでいたことの現れであろう。

唱歌，童謡とも，現代に生きている我々が次の世代に向けて残していくべき音楽だと考える。今後も，これらの曲については，広い観点から研究して行きたい。

最後になったが，今回の研究資料である「小学校唱歌新教材第一篇」（大正11年7月発行）～「唱歌新教材第卅八篇（大正14年6月発行）（第廿七篇・第廿九篇～第卅五篇は欠落）の30冊を貴重な蔵書にも関わらず寄贈下さった中国学園図書館司書の茶崎直子氏に深く感謝する。

## 参 考 文 献

- 鎌谷静男：永井幸次論考-1- 大阪音楽大学研究紀要  
（通号 30），p86～75，1991
- 鎌谷静男：永井幸次論考-2- 大阪音楽大学研究紀要  
（通号 31），p150～133，1992
- 鎌谷静男：永井幸次論考-3- 大阪音楽大学研究紀要  
（通号 32），p104～85，1993
- 鎌谷静男：永井幸次論考-4- 大阪音楽大学研究紀要  
（通号 33），p220～200，1994
- 鎌谷静男：永井幸次論考(5) 大阪音楽大学研究紀要  
（通号 34），146～126，1995
- 鎌谷静男：永井幸次論考(6) 大阪音楽大学研究紀要  
（通号 35），220～188，1996
- 鎌谷静男：永井幸次論考(7) 大阪音楽大学研究紀要  
（通号 36），260～239，1997
- 鎌谷静男：永井幸次論考(8) 大阪音楽大学研究紀要  
（通号 37），268～254，1998
- 松井みさ：創成期の童謡とその音階についての一考察  
中国学園紀要第4号 107～110，2005
- 金田一春彦，安西愛子編：日本の唱歌（中）講談社  
1979
- 金田一春彦：童謡・唱歌の世界 主婦の友社 1978  
日本のうた 第1集 野ばら社 1998